



餅花作り
(こぐま保育園)

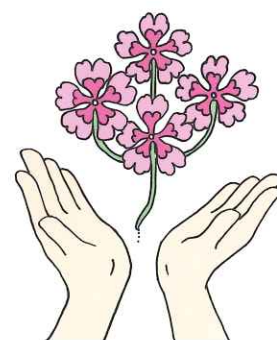
みらい

2012.1
新春号 ⑥

一般社団法人 さいたま市私立保育園協会 広報誌

Contents

- 会長あいさつ…P2
- 「子どもの育ちと保育制度を守る全国研修会」を開催・
東日本大震災・放射能問題と双葉町支援講演会開かれる…P3
- 部会活動報告…P4 さいたまキッズなcity…P5
- つぶやき(保育園に勤務する主任・看護師)・保育見学会…P6
- わくわくがいっぱい!・編集後記…P7 保育園紹介…P8



つながりあうことを大切に

一般社団法人 さいたま市私立保育園協会

会長 剣持 浩

先行き不透明な日本

昨年は未曾有の災害が起きました。

世界では金融崩壊と独裁政権の崩壊、タイの水害など、各地で次々と起こった問題は、直接私たちの生活に大きな影響を及ぼした年でもありました。世界的な経済の行き詰まりは日本経済の屋台骨にも大きな影響を与え、生産の拠点を海外の発展途上国に移すことで日本の高度な技術と巧みな生産技術は衰退の一途をたどっています。日本経済の空洞化がパート労働者の増加と不安定な雇用形態を生み出し、仕事をしなくとも仕事がない結婚したくても将来の見通しがたない子どもを育てるゆとりがないなど不安な時代に入りました。そして不安は生きる希望の喪失につながっており、日本社会の見通しの暗さを映し出しています。刃物を持ち歩き見境無く斬りつける若者の行動は小さい子どもへの虐待と通じる構造があるようです。見通しが立たないこうした日本社会の歪みと長いトンネルからどのように抜け出せばいいの

でしょうか？

光が

学校の校長、教職員も教え子や家族を失い、親、兄弟を亡くした子どもたちもたくさんいました。被災地では、このままではいけないと学校を再建し、地域の再生に動き始めました。恐怖と悲しみから立ち上がり、避難所での中高生の活躍は生きる励みにつながり、全国からの支援が被災地の青少年と大人に大きな力と励ましを与え、輝く表情が生まれています。私たち協会も双葉町支援をはじめ義援金を集め、(昨年の総会で152万3497円、支援講演会で49万7335円)支援してきました。みなさまのこうした励ましが被災地の方々を支えています。一日も早い復興を祈念します。

保育の原点、時代の变化と私たちの仕事

ゆとりのない生活、自信が持てない子育て、余裕のない生活は子どもたちの生

活と育ちに大きな影響を与えています。

朝の貴重な時間に子どもがぐずぐずしているの追いついてるように「早く!」「仕事に間に合わない!」「いい加減にして!」と感情むき出しにする姿を見て「ちよつと早く余裕を持つてやりくりすれば良いのに…」と批判するのは簡単です。休み明けの子どもたちは荒れと甘えで落ち着きません。休日前にきれいだっただけが荒れ、お尻を真つ赤にしてやってくる子どもたちは、家でどういう扱いを受けていたのでしょうか?保育士は目の前にいる子どもたちに精一杯応えようとして子どもたちを受け止めています。前述した現代社会の歪みは少なからず子育て世代の親へ反映し、そのしわ寄せが子どもの育ちに少なからず影響を与えているとするならば、私たちの仕事に求められている課題はきわめて大きいと言わなければなりません。

全国保育士会倫理綱領前文で「すべての子どもは、豊かな愛情のなかで心身ともに健やかに育てられ自ら伸びていく無限の可能性を持っています」と述べてい

ます。そして、「私たちは子どもの現在(いま)を幸せに生活し、未来(あす)を生

きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任を持って……子どもの育ちを……保護者の子育てを支え……子どもと子育てにやさしい社会をつくり出す」と高らかに謳い、そのあとに8項目の目標を掲げています。今の時代、混沌として先行きが見えない時代にあつて私たちの仕事の原点を示しています。倫理綱領を読み返すたびに私は感銘を受けます。市町村の保育の実施義務を取りはらい、法的義務を放棄する「子ども・子育て新システム」の問題も倫理綱領の視点で見ていくことも必要でしょう。先行き不透明な時代の波にあつて、保育所の役割、保育の原点、私たちの果たすべき課題が問われる一年になるでしょう。このような時代にあつて、私たちは子どもたちの豊かな成長のために、互いにつながり合うこと、支え合うことを呼びかけます。



「子どもの育ちと保育制度を守る全国研修会」を開催



現在、国において「子ども・子育て新システム」の法案化に向けた作業が進められていますが、11月14日に日比谷公会堂で子どもの育ちと保育制度の行方に関心や危機感を持つ保育関係者2,123名が参加して全国研修会が開催されました。1部のシンポジウム形式の研修会のテーマは「保育の質と子ども・子育て新システムの問題点」、コーディネーターは日本弁護士会貧困問題対策本部委員で女性と子どもの貧困部会所属の大井琢氏、シンポジストは日本保育学会理事・帝京大学教職大学院教授の村山祐一氏、保育園を考える親の会代表の普光院亜紀氏をお迎えして問題点等について熱く語って頂きました。また、2部ではさいたま市私立保育園協会会長剣持浩氏の開会あいさつに始まり、各党の国会議員代表者と保育を守る全国連合会の各地区代表者のあいさつの後、「子ども・子育て新システム」に反対する決議文が採択されました。主な反対理由は、①「児童福祉法」第24条廃止で公的責任が後退する。②待機児童を制度の問題にすり替えるものである。③利益追求で保育士の処遇を低下させる。④上乗せ徴収で子ども処遇に落差を生むとして、アピール文を採択しました。

東日本大震災・放射能問題と双葉町支援講演会開かれる



9月10日(土)さいたま市民会館「うらわホール」に於いて、東日本大震災・放射能問題と双葉町支援講演会が開かれました。さいたま市長清水勇人様もかけつけて下さり、あいさつをして下さいました。

「あの日、双葉町のまどか保育園でおきた事」と題して、副園長である杉本洋子先生より、3月11日の、長い1日と、その後の出来事をお話しいただきました。最後に、「短時間だったが、町に戻ったとき、

時間が止まったような現場、ゴースタウンとなった双葉町を見てつくづく思いました。それは、双葉だけでなく現状を見てほしい。原発はどこにでもある。どこでどう起きるか分からない。他人事だと思わないでほしい。忘れないようにしてほしい。」と訴えました。



放射能とこどもの健康

子ども達の未来を守るために放射能とは何か。子どもの健康はどうすれば守ることができるのか? 日本大学専任講師 野口邦和(放射能防護学・環境放射線学)氏に講演いただきました。会場は、子どもたちを前に、日々悩む保育関係者で満席となりました。参加費として一口1,000円の義援金をいただき、井戸川町長へお渡ししました。

保育園では?

食材は?

放射線量は?

食べることは、毎日のことで、牛乳からセシウムが、魚から、ミルクからもセシウムが出たとの報道に毎日給食室では頭を悩ませている。牛乳や野菜等の産地を知らせてほしい。牛乳や魚を食材に入れないよう検討してほしい。せめて0・1歳には控えてほしい。そんな要望が保護者から寄せられています。

野菜の産地を毎日表示。魚の産地も保護者に知らせる。園内、園周辺の放射線量も保護者にお知らせするなど対応に時間を取られます。

こども達の遊ぶ、庭や公園の放射線量はどうなっているのか。毎日調査し伝えている園もあります。安心して遊べる場所はどこか。散歩も安心して出られません。この食材はどこ産地? などと思わないで食べたいものです。微量だから安全です。とは言えないのだから。

部会活動報告

平成23年度 予算対策部会 活動報告

部長 金子 正年

予算対策部としましては、例年同様市長・議長に平成24年度保育関係予算に対する要望書（要望項目 13項目）と、居室面積基準の特例措置についての意見書も同時に添付し提出いたします。今後は各会派に対し、要望書（要望項目14）としまして、子ども子育て新システムに対して再検討をお願いするを加えて提出してまいります。

平成23年度 研究・研修部会 活動報告

部長 中嶋 貴子

研修部は、保育園の子どもたち、保護者、保育園で働く私たちが、安心して生活できる場所でありたいと活動しています。

【Ⅰ】理事長・園長研修

「これからの動きと新会計基準について」

保育園も変わりつつあります。しっかりと見極めることが大切である。

「予算編成作成方法」

質の良い保育のため、予算保障も必要である。

【Ⅱ】主任交流会

「頼られ愛される主任のためのコミュニケーションの研修」

「上質世界」を意識したコミュニケーションについて考えさせられた。保育の場を高めるため今後も交流会を実施予定。

【Ⅲ】保育士研修

「保育の資質向上に向けて 子どもと共に生きるということ」

事例を通して意見交換をし、保育のあり方や保育は、園・保育者・保護者・子ども・みんなで作り上げていくことを改めて感じられた。

【Ⅳ】看護師交流会

「感染症」 各保育園の感染症に罹ったこどもの状況や人数、具体的な感染予防の方法

「発達」 資料を持ち寄り子どもたちの発達の見方、考え方、保護者への伝え方など話し合い深めたい。

【Ⅴ】保育園見学会

「めだか保育園」

生活の中で、自然に五感が発達していくように考えられた、すばらしい保育園でした。

【Ⅵ】さいたま市保育研究大会

「大人も子どもも共に育ちあう」

「異年齢保育について」公立保育園と、私立保育園が発表。

平成23年度 広報部会 活動報告

部長 和田 喜美

会員相互の交流を図り、保育界の情報、子育て支援に関する情報、研修会の報告と園紹介の特集など会員の皆様にに向けた広報誌を発行しました。

【活動】 ・年2回の広報誌を発行・取材

【紙面の内容】 ・保育界の情報 ・子育て情報 ・取材
・各部会の活動報告 ・園紹介の特集など

平成23年度 調査・研究部 活動報告

部長 島村 和宏

①幼児教育調査委員会への出席・アンケート作成

アンケート「子どもの食生活と親の関わり方」の集計結果に考察・提言を加えて冊子・リーフレットの作成を行っています。

②市内会員園対象アンケート 調査・研究項目の検討

【調査項目】

- (1)昨年度実施のアンケートを参照
- (2)研修部に今後の企画参考として
- (3)食育部への参考意見として
- (4)次年度活動の参考として
- (5)調査項目案として

③市内園対象のアンケート

園の運営に関する保育課への質問事項、要望事項、監査指導上の質問事項を集約して、保育課との懇談会、意見交換会の際に私立保育園協会会員園からの質問、要望としてお伝えしていきます。

今年度実施のアンケートは保育課との意見交換会、各部との連携という形で生かしていきます。次年度に向けては昨年度実施の父親の子育て実態調査の経年調査、危機管理マニュアル、クレーム事例集作りなど要望として挙がってきたものを具体的に進めていく予定です。引き続き「小さなことからコツコツと」市内会員同士での情報の共有・その積み重ねを運営対策、質の向上に繋げていければと考えております。

平成23年度 食育部会 活動報告

部長 和田 明子

食育部会では、勉強・意見交換会や調理講習会を毎年開き、栄養士、調理師等の知識を高め、園の食事や食育活動の工夫をしています。

6月30日に「日本食品成分表の改訂について」の勉強会、及び、意見交換会をおおぞら保育園にて行いました。現場で働く者にとって、厚生労働省の変更点等の情報を得る機会少ないので有意義な勉強会になりました。グループ別の意見交換会では、各園ともにアレルギー児の対応について、日々試行錯誤していることが分かりました。献立表やアレルギーの書類の資料を交換したり、給食を提供する上での悩みについて話し合ったりしました。震災の影響で、保護者の食事に対する不安が多いことも分かりました。

9月8日に「手軽に作れる♪手作りパンとミラノ風スープ」の調理講習会を実施しました。手作りパンというと、給食に取り入れるのは難しいのではないかと思われがちですが、ポイントを踏まえて調理すると簡単に美味しい焼き立てパンが出来上がりました。各園で食育の一環として取り入れるなど、子ども達に本当のパンの美味しさを味わってもらえたらよいのではないのでしょうか。

10月8日のキッズなCityは、アットホームな雰囲気の中、子どもも保護者も楽しんで参加している姿が見受けられました。

これからも食育部会では、子ども達が健やかに成長できるように保育園の給食について考え、活動していきますので、是非食育部会の活動にご参加して頂きますようお願い申し上げます。



スライム作り



さいたま キッズなcity



これまでの10年。
これからの100年。
SAITAMA CITY 10th ANNIVERSARY

- ショータイム …… 手遊び・パネルシアター・絵本・大型紙芝居・アンパンマン体操
- 製作ブース …… 手形・小物入れ・ネックレス・お面・スライム・ぬり絵
- ゲームコーナー … 魚釣り
- 園紹介コーナー

紙芝居は拍子木で子どもを集め、ラムネやキャンディーを配り、昔懐かしい雰囲気を出しました。



園紹介コーナー



10月8日、さいたまスーパーアリーナにて、さいたま市誕生10周年事業さいたまキッズなcityが開催されました。

10時の開場とともに、私たちのブースではショータイムの始まりです。茶色い手袋で作られた可愛いらしいクマが登場し、愉快な手遊び歌が聞こえると、続々と来場者が集まってきました。拍子木が鳴ると、子どもだけではなく、保護者の方も懐かしさを感じ、紙芝居の世界へ引き込まれているようでした。手作りの魚釣りコーナーでは、大きな魚を釣り上げ、歓喜の声をあげる子、狙った魚がなかなか釣れず何度も挑戦する子など、見ているこちらまで手に汗を握っていました。

たくさんの方に足を運んでいただき、まるで私の気持ちは「おみせやさんごっこ」をしている気分でした。とても楽しかったです。また多くの先生方とお話をさせていただき貴重な体験ともなりました。ありがとうございました。（こびとの森保育園 保育士 井筒綾乃）



主任って大変…

園長と職員の間で板ばさみ。意見の食い違いや、コミュニケーションの取りづらさを感じることもある。

相談できる人が欲しい。

バタバタしていて何もやれていない。

担当が持ちたい。子供と接することが少ないことがストレス。

それぞれ悩みもあるけれど

みんなと一つになれるように、
楽しんで仕事ができるように
『頼られ愛される主任』目指して
主任保育士は各園で頑張っています。



看護師として…

一人職種でやりやすい点とやりにくい点がある。

- 孤独であるが、自分で得た知識を自由に展開できる。
- 大勢の保育士から信頼を得るには時間がかかるが、あてにされていると感じられた時の喜びは大きい。
- 保育士とは違った側面から保育を考えていく意義は大きいと思い、自分の仕事に喜びを感じる。しかし、現実には保育園の看護師という立場に四苦八苦している看護師達がたくさんいるのだろうと想像できる。

看護師って病院を出たら何も出来ない存在のように感じる。保育園には保健室もないし保健の仕事といっても保健師ではない。保育士と一緒に保育室で乳児の世話をしている。

看護師がいて助かるとは言われても自分の中では何にもやれないという自己嫌悪が募ってしまう。しかし、子ども達と一緒にいるのは楽しい。年齢的にも保育園のあば的な存在で見守っていたいという気持ちでいる。

この仕事に就くまでは健康な子が来る保育園だと思っていましたが、風邪の子、障害のある子、心に病を抱えている子、親との関係が心配な子、様々な子がいることが分かりました。どの子もすくすく成長ができるよう、日々祈りながら私も保育園に通わせてもらっています。

子ども達が怪我をした時など、看護師のことを理解して頼ってきた時にはすごく嬉しいと思う。朝の健康チェックの時に、怪我をした所を見せてくれたり、自分の具合の悪いことを言ってくれる時、辛いことなど言ってくれるのは、自分が少しずつ信頼されてきたのかなと思う。

保育でいっぱい忙しい保育士さんが、感染予防や子どもの体調管理に意識がいくのは大変。特に若い先生は個人に合わせてとか、その状況に合わせてというのが難しい様子です。(例えば気温や個人の体調に合わせて衣類の調節、外に出す出さないなど) それでも、声をかけると頑張ってくれているので、助けてもらっていることに感謝しています。

保護者には病気の時にしか電話を入れることがないの
で「電話の声を聞くとドキッとします」と言われ申し訳ないやら、複雑な気持ちになります。

編集の段階で重複していると思われるものはまとめていただきました。ちょっと違うという方ごめんなさい。保育室に入っていると、子どもの体調を把握しやすい、子どもがかわいく成長が見られて楽しい、反面、一人の仕事なので判断に困ることや、相談する相手が少なく、保育士との考え方の違いに迷うことも多いとの意見がたくさんありました。

参加者15名

プールから勢いよく水に飛び込む子ども達の姿をみて「嬉しい」と感心。

また、0歳児からパンツで過ごしていることや給食について等、参加者の質問、疑問等に黛先生が「めだか保育園の方針」を交えながら丁寧に答えて下さいました。

リズム活動が初めての方が主でしたが、まさに「百聞は一見にしかず」大人もやってみることでリズムがどのようなものかを感じることができたと思います。

その後、園内を自由見学させて頂きました。

リズム活動が初めての人が主でしたが、まさに「百聞は一見にしかず」大人もやってみることでリズムがどのようなものかを感じることができたと思います。

その後、園内を自由見学させて頂きました。



木の温もりを感じる園舎は、各クラスの仕切りが開けられ明るく開放感に満ち、全ての保育室から見渡せる園庭には、保護者手作りのブー

8月24日
めだか保育園
保育見学会

わくわくが いっぱい!

武蔵浦和Jキッズステーション

お弁当箱給食 3歳4歳5歳クラス

家からお弁当箱を持ってきて給食を自分たちで詰めて公園、園庭、保育室などで食べます。普段とちょっと違うことが嬉しくてこの日を楽しみにしています。



エンゼル乳幼児園

大根掘り



今年の大根は豊作で、甘くてとてもおいしかったです。

若草保育園

餅つき 園長先生も頑張っています



あんこときなこのお餅をたくさん食べました。

やまばと保育園

雪あそび

年長児は、毎年冬2泊3日の雪あそびにいきます。この時期には色々な経験をさせてあげたいと思っています。子ども達も大喜びです。



こびとの森保育園

餅つき



お父さんが2名応援に来ました。



編集後記

保育園で餅つきをするからと、合の手を母親に教えてもらったのが35歳の時、以来毎年割烹着と手ぬぐいの姉さかぶりで張りきった。「もちは望を意味するという説があり、古くは餅は鏡餅でした。餅は米飯の調理法であり、保存法であり、祝いの事の捧げものでした。」子どもの頃若い衆が多かった実家の餅つきは盛大、大人に混ざり兄弟揃って餅を丸めました。当園では4、5歳児はついた餅を丸めて鏡餅を作ります。母親のようにびかびかの丸い鏡餅を伝授できませんが、子どもたちは持ち帰りみかんをのせて、お正月を迎えています。いろいろな形で日本の伝統文化を伝えていきたいと考えています。

広報部 和田喜美

・表紙の写真・ 餅花作り

1月に、年長児たちと餅花(繭玉)飾りを作りました。この餅花飾りは、小正月に農作地域で1年間の豊作を祈る伝統行事です。薄れていく伝統行事を伝え、みんなで楽しく団子を丸めながら、繭玉にこめた農家の人たちの豊作への思いや食べられることの有り難さも伝えたいと思いつくみました。新年を気持ち新たに迎える機会にもなりました。

こぐま保育園



保・育・園・紹・介



あすなろ保育園 園長 井上 義則

1978年（昭和53年）に設立したあすなろ保育園は、今年で34年目を迎えました。旧大宮市で社会福祉法人立保育園の先駆けとして開設して以来、地域と共に歩み、これまで大勢の卒園児が巣立っていきました。平成13年に現在の園舎になり、周辺の町並みも徐々に様変わりしてきましたが、当時の武蔵野の面影を感じさせる好環境の中、130人の子供たちの元気な声が響いています。

あすなろ保育園は、しなやかに生きる力を培うことを保育方針として、一人ひとりの可能性を最大限に発揮できる子ども、生き物や自然を大切にすること、健康な心身の宿る子どもを保育目標に、日々の保育に当たっています。そんな子ども達が就学した後のつながりも、保育園として大切にしていることのひとつです。主な行事には、小学生から高校・大学・社会人まで毎回大勢の卒園児が来園して、地域の絆を深めながら、子どもが健全に育つ理想的な環境づくりを目指しています。

また、地域の子育て支援にも力を入れ、区内の様々な場所に出かけて行う出前子育てサロンや、関係機関と連携した子育て家庭への支援活動などに取り組んでいます。

これまで三十余年の歩みの中で培ってきたものを大切に、更に時代の新しいニーズに応じて、これからも子育てや子どもの成長を支える大きな力になっていきたいと思います。



こぐま保育園 園長 増永久美子

こぐま保育園は、1968年に診療所の職場保育所としてスタートしました。その後、お母さんたちと共につくった無認可共同保育所を経て認可保育園となり、今年で35年目を迎えました。その間、働くお母さんたちの願いに応え、当時は数少ない産休明け保育・長時間保育・障害児保育を行い、定員も65名から85名に増やしてきました。

「広い庭のある保育園」と言われますが、その園庭も20年前に、地主さんに返すか 買うか…という選択に迫られ、保護者と職員で何度も話し合った末、子どもの育ちに必要な太陽と土を保障しようと力合わせて購入したものです。その当時植樹した木々は大きく育ち、カリン・ビワ・あんず・ぶどうも実り、四季の変化を肌で感じながら生活しています。

大切な乳幼児期、泥や水でたっぷり遊び、安全で美味しい給食を食べ、リズム遊び・四季折々の自然の中の散歩を大切にしています。

そして、健康で丈夫な体・たくましくしなやかな心を育むこと・いたわり励まし合う合う仲間づくりを保育方針としています。前園長（黛）に引き継ぎ4年目となりますが、これからもよろしくお願いします。



浦和乳幼児センター 園長 永田 眸

昭和55年、旧浦和市常盤に社会福祉法人浦和乳幼児センター「常盤乳児保育園」として設立され、生後3か月から零歳児専門の保育園として開園。30名定員からのスタートでした。また、地域子育て支援の先駆けとなった育児相談等を行う「常盤乳幼児館」が細川かう館長を中心にボランティアの方たちによって同時に始まりました。

その後、生後43日からの零歳児・1歳児・2歳児まで60名定員の保育園となり、平成8年に常盤乳幼児館と常盤乳児保育園を一体化し、施設名を「浦和乳幼児センター」に変更。延長保育・一時保育・休日保育・地域子育て支援事業も同時に実施しました。

平成15年に市より「子育て支援センターうらわ」の委託を受け、平成18年には南区に「第二浦和乳幼児センター」を開設、3施設の法人となりました。

尚、平成25年には園舎建替えに伴い、保護者の要望もある5歳児までの保育園、地域にも愛される保育園として生まれ変わる予定です。

創設以来の「いのちを大切に」を理念とし、子ども達の笑顔や気付き、目には見えない心の動きを見つめ寄り添いながら「やさしい保育」を心がけています。そして、これからも保育園にいる誰もが楽しい居場所となるよう職員みんなで力を合わせ、毎日の保育にあたっていきたいと思えます。



白菊保育園 園長 岡田 友子

昭和54年、大宮駅から徒歩17分閑静な住宅街に社会福祉法人育成会白菊保育園設立。当初定員60名、1歳児から就学前までのお子さまをお預かりしておりましたが、平成9年度80名、平成11年度90名へと定員を増員いたしました。又平成6年度から0歳児保育を開始、保育時間も徐々に延長、時代の流れと共に保育環境も変化し園長も3代目となり現在に至っております。

広い園庭に恵まれ、早春には梅の花の香りを楽しみ、桜の樹の下でお花見昼食、そして花ふぶきと一緒に舞う子どもたち。夏にはせみ捕り。秋には銀杏の色づき、落ち葉制作等季節を楽しませてくれる自然環境の中、草木に触れながら生活しています。又隣接している高齢者福祉施設であるデイサービスセンターやふれあいセンターのご利用者の方々と夕涼み会、餅つき、クリスマス交流会等を行っております。交流を通して核家族化で高齢者との関わりが少なくなっている折、ふれあいを大切にしていきたいと考えております。

「明るく元気な子」「考えられる子」を保育目標とし、十分身体を動かし健康な身体をつくること、同年齢・異年齢・様々な人と関わり、様々な経験を通して素直に自分を表現出来、人への思いやりや感謝の気持ちが育まれる様日々の保育を心がけ、保護者との連携を密にし、共に成長の喜びを共有出来る様努めております。